

社会学部報

◇学術講演会

- 社会学部では、1989年1月12日(木)午後2時50分から同学部第2号教室で学術講演会を開催した。テーマは「人権と私」。講師はアムネスティ・インターナショナル日本支部長のイーデス・ハンソン氏。同氏は1939年に北インドで生まれた。父はメソジストの米国人宣教師。1949年米国へ。オクラホマ大学で学び、1960年に阪大の交換教授だった兄と来日。1979年アムネスティ・インターナショナル日本支部のメンバーになる。そして1986年4月、支部長に就任する。アムネスティ関連著書には、「ジャーナリスト・アイ」(柏書房)、「世界人権宣言」(岩波書店)、「同時代を語る」(岩波書店)などがある。

当日は学生、教職員など250名が参集し、大阪弁の流暢な日本語を駆使し語る講師の話しに真剣に聞き入っていた。

◇学部研究会

- 1988年11月7日(特別例会)曹璐(チャオ・ルー)女史(北京広播学院新聞系副教授・中国新聞学教育協会秘書長)
「中国における放送ジャーナリスト教育と放送学研究」
通訳 黄昇氏(中国中央テレビ局ディレクター・一橋大学大学院学生)

◇会員の新著

- 対馬路人助教授(共著)『論集日本仏教史』
1988年6月 雄山閣
- 芝野松次郎助教授(監訳)『児童福祉インテーク』1988年7月 ミネルバ書房
- 西山美磋子教授(分担執筆)『組織の行動科学』1988年9月 福村出版
- 高田真治教授(編著)『社会的ケアシステム』
1988年7月 全国社会福祉協議会
- 浅野仁教授(編著)『老人の在宅介護』1988年9月 中央法規出版
- 浅野仁教授(監訳)『痴呆性老人のケアの実

際』1988年10月 川島書店

- 芝野松次郎助教授(共訳)『スモーキング』
1988年9月 同朋出版
- 萬成博教授(共著)『Des Entreprises Françaises et Japonaises Face a la Mecatronique』1988年6月 Laboratoire d'economie et de Sociologie du Travail

田中 国夫

学会消息

◇日本心理学会

日本心理学会第52回大会は、1988年10月8日から10日まで、広島大学にて開催された。本学からはシンポジウム「Social Intelligence をめぐって」において、田中国夫教授が「スポーツの達人」・「かしこさ」・「社会的知能」で遊ぶ——「社会的有能性」の“市民権”獲得をめざして——というテーマで企画者、司会者となり、武田建教授が「かしこい」コーチ、「かしこい」選手——臨床：アメ・フト監督から——というテーマで話題提供者となり、活発な議論が展開された。研究発表では、田中国夫、井上和子、大前衛、田淵創、岩淵千明、広沢俊宗各氏らの共同研究による「神戸市民の研究」が発表された。発表者は以下の通りである。

- 神戸市民の研究 [1] 田中 国夫
- 神戸市民の研究 [2] —市民意識(1)— 田淵 創
- 神戸市民の研究 [3] —市民意識(2)— 大前 衛
- 神戸市民の研究 [4] —市民意識(3)— 岩淵 千明
- 神戸市民の研究 [5] —市民意識(4)— 井上 和子

また、田中、広沢両氏の共同研究で、「痴漢に遭う原因、感情反応、および対処行動に関する研究」を広沢氏が発表した。

◇日本社会心理学会

日本社会心理学会第29回大会は、1988年10月11・12両日にわたって、名古屋大学にて開催された。本学からは研究発表において、田中国夫、井上和子、大前衛、田淵創、岩淵千明、広沢俊宗各氏らの共同研究による「神戸市民の研究」が発表された。発表者は以下の通りである。

- 神戸市民の研究 [6] —政治意識(1)— 岩淵 千明
- 神戸市民の研究 [7] —政治意識(2)— 大前 衛
- 神戸市民の研究 [8] —政治意識(3)—

また、井上和子氏により「行動予測モデルにおける行動規範と交互作用の検討——女性の喫煙行動の規定因に関して——」が発表され、田中、井上、広沢氏の共同研究で、「Fishbein の行動予測式再考(2)」を広沢氏が発表した。また、真鍋一史教授が「文化」の部会において、スタンフォード大学のハルミ・ベフ教授との共同研究「日本人論の諸命題とその諸機能に関する実証的研究——質問紙調査による接近——」の成果を発表した。なお、この共同研究に対して関西学院大学から「国際共同研究交通費補助」が与えられたことを付記しておかなければならない。

◇パスカルの『パンセ』国際研究集会

1988年10月7日、8日、関西学院ランバス礼拝堂および千刈セミナーハウスにおいて、「パスカルの『パンセ』—東洋と西洋の文化交流」という主題で国際研究集会を開催した。ポール・ロワイヤル学会、ブレイズ・パスカル国際研究所所属の大学教授、研究員がヨーロッパから50名、日本人50余名が参加した。パリ・ソルボンヌ大学のジャン・メナール教授、フィリップ・セリエ教授、原亨吉大阪大学名誉教授が講演をし、本学部の森川甫教授が組織、運営にあたった。

◇日本社会福祉学会

日本社会福祉学会第36回大会は、1988年10月9・10日、東北福祉大学で開催された。大会テーマは、「変革期の社会福祉<人権的視点からの検討>」であった。本学からは次の教授と大学院学生が報告した。

浅野仁(共同研究)「地域住民のボランティア意識について——兵庫県I市における調査結果をふまえて——」

渡辺顕一郎・荒木義子「登校拒否をめぐる家族危機のフィードバック過程」

窄山太(共同研究)「セルフ・ヘルプ情報センター——設立の経過と今後の方針——」

◇日本時事英語学会

日本時事英語学会第30回年次大会は1988年10月1・2日の両日、上智大学で開かれ、本学部からは西尾朗教授、中西良夫助教授が出席、第1日目は上智大学のWilliam Currie氏によるLanguage and Cultureと題する特別講演があったほか、「米国の活字メディアに見られる対日イメージ」というテーマでシンポジウムが行われた。

第2日目は総会をはさんで20にのぼる研究発表があり、その中で本学の中西助教授は「衛星放送による英語授業のための基礎実験(1)」と題する研究の成果を発表、なに分にも新しいメディアによる語学教育の方法だけに聴衆者の大きな関心と興味を呼んだ。

◇数理社会学会

第6回大会が、10月11日に東北学院大学にて開催された。参加者は会員47名、非会員15名。本学からは高坂健次教授と斎藤友里子実験実習指導補佐が参加した。本学会大会では、通常の研究発表に加えて、ポスターセッション(3件)、フリートーキング(「権力研究の課題と展望」)、ミニシンポジウム(「階層意識：SSM調査からの飛躍」)が行われた。とくに、ミニシンポジウムは3時間半にわたり、活発な討論がなされた。

◇日本社会学会大会

第61回大会は、1988年10月9日、10日の両日、東北大学で開催された。参加者数は、会員813名、非会員74名、合わせて887名であった。本学からは、第一日目の学説研究Ⅱ部会で中野秀一郎教授、地域問題の部会で鳥越皓之教授、労働省・労働問題Ⅰの部会で西山美瑛子教授がそれぞれに司会にあたった。また、第二日目のテーマ部会では現代社会へのコミュニケーション論的アプローチの部会で、正村俊之専任講師が「コミュニケーションによる自己組織化」と題して発表を行った。本大会のテーマ部会は、「高齢化社会への社会学的パースペクティブ」、「ジェンダーと社会学の再構成」、「現代社会における『主体』の変容—生活方法(様式)変動

の観点から—」と上記課題のあわせて4つのテーマ部会であったが、それぞれに多数の出席者によって熱心な討論が行われた。

なお、本学からは西山美瑛子教授が『社会学評論』の新編集委員を、高坂健次教授が研究活動委員および欧文出版物刊行検討委員をそれぞれ委嘱された。

執筆者紹介 (掲載順)

半田一吉	関西学院大学教授	村川満	関西学院大学教授
中西良夫	関西学院大学助教授	船本弘毅	関西学院大学教授
中野秀一郎	関西学院大学教授	小林久高	大学院社会学研究科 研究員

社会学部研究会々員

会長	遠藤 惣一				
評議員	杉山 貞夫	牧 正英	津金 沢 聡 広		
	春名 純人	高田 真治	対馬 路 人		
会計監査	佐々木 薫	宮田 満雄			
書記	岡部 衛一郎				
名誉会員	青山 秀夫	藤原 恵	本出 祐之		
	小関 藤一郎	岡村 重夫	嶋田 津矢子		
	杉原 方	清水 盛光	栃原 知雄		
	(A B C 順)				
普通会员	田中 國夫	西尾 朗	定平 元四良		
	萬成 博	領家 穰	倉田 和四生		
	半田 一吉	武田 建	森川 甫		
	中野 秀一郎	張 光夫	中山 慶一郎		
	J.A. ジョイス	船本 弘毅	紺田 千登史		
	村川 満	西山 美瑳子	安田 三郎		
	真鍋 一史	山路 勝彦	山本 剛郎		
	鳥越 皓之	荒川 義子	安藤 文四郎		
	浅野 仁	高坂 健次	芝田 正夫		
	芝野 松次郎	中西 良夫	立木 茂雄		
	宮原 浩二郎	正村 俊之			

関西学院大学社会学部研究会会則

- 第 1 条 本会は関西学院大学社会学部研究会とよぶ。
- 第 2 条 本会は社会学および隣接諸科学の研究ならびに会員相互の交流を計ることを目的とする。
- 第 3 条 本会は上記の目的を達するために次の事業を行う。
- 1 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」の発行。
 - 2 研究会および講演会の開催。
 - 3 研究叢書の刊行。
 - 4 その他本会の必要と認める事業。
- 第 4 条 本会の会員は次の 3 種とする。
- 1 名誉会員 本会の特に推薦するもの。
 - 2 普通会員 本会社会学部専任の教授、助教授、講師および助手。
 - 3 賛助会員 以上の外申込のあったもの。
- 第 5 条 普通会員は年額 19,200円、賛助会員は年額 10,000円以上の会費を納めなければならない。納付済の会費は返還しない。
- 第 6 条 本会員および本会社会学部大学院生・学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の講読費は昭和 56年度入学生より年額 1,600円とする。
- 第 7 条 本会に次の役員をおく。
- 1 会長（1名）は、社会学部長をもってあてる。
 - 2 評議員（6名）は、普通会員の中から互選し、本会の運営に当る。
 - 3 編集、会計、庶務の各委員は、評議員の中から互選する。
 - 4 会計監査（2名）は、普通会員の中から互選する。
 - 5 書記は、社会学部事務長に委嘱する。
- 第 8 条 本会役員任期は 2 年とする。重任を妨げない。
- 第 9 条 本会会計年度は 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終る。予算・決算は総会の承認を得なければならない。
- 第 10 条 総会は年 1 回とし、本会の重要事項を議決する。臨時総会の開催を妨げない。
- 第 11 条 本会は事務所を本会社会学部におく。
- 第 12 条 本会会則の変更は総会の議決によらなければならない。

<編集後記>

「社会学部紀要58号」をお届けいたします。本号は西尾朗教授の定年退職記念号とさせていただきます。先生の永年に亙るご指導を心から感謝申し上げますとともに、これからも尚いっそう活躍されますようお祈りいたします。

今年度は西尾教授と定平教授、お二人を定年退職でお送りすることになりました。そこで今回は、58号と59号を同時に発行することにし、誕生日によって、先にお生れの西尾先生の記念号を58号、定平先生の記念号を59号とさせていただきます。

今回はたくさんの論文を提出いただきましたが、これらを紀要の編集にあたっております研究会評議員会の責任で2号に振り分けさせていただきました。また、報告や消息などについても2号にわたっております。ご了解ください。

煩雑な編集の実務は、篠崎陽一事務主任をはじめ事務室の皆さんにとっ
ていただきました。感謝いたします。(高田)

1989年3月10日 印刷

1989年3月20日 発行

編集発行人 遠藤 惣一

発行所 関西学院大学社会学部研究会

〒662 西宮市上ヶ原一番町

関西学院大学社会学部内

電話(0798)(53)6111(代表)

(内線) 4212

印刷所 尼崎印刷株式会社

〒660 尼崎市北大物町16-55

電話 (06)481-0707(代)

KWANSEI GAKUIN

SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

No. 58

March 1989

The Study Association of Sociology Department

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

Nishinomiya, Japan
